

## 「全力は美しい」

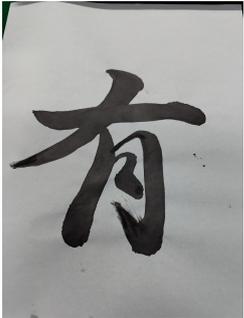
県立神戸高等学校長  
新谷 浩一

### ○ おとなになっても宿題はあるのです

季節をひとつ遡り、秋の話です。本格的な登山家の繁戸先生、宗先生、桑田先生には叱られそうですが、私もそれなりに山登りが好きです。メンバーが40人ほどいるグループをつくり、月に一度くらいはみんなで山に登っています。7年前の海の日に発足したので、グループ名は『海の日に山』の会。通称『海山会』と私たちは呼んでいます。幸い「晴れ男」か「晴れ女」がメンバー内にあるようで、滅多に雨は降らないのですが、昨年11月の例会予定日はしっかりと大雨の予報でしたので、珍しく例会を中止としました。

でも私は解っていました。「宿題をきちんとやりなさい」ってことだな、と。土砂降りの地獄坂を登った私は校長室に入り、宿題の準備にとりかかりました。校舎内で練習をしていた野球部員が覗き込んでくれます。「何をしているんですか？」と。そりゃ、こんなものを私が広げていたら不思議ですよ。

宿題は見ての通り、埜田先生から出された習字です。神戸高校の卒業アルバムの表紙には毎年、校長が筆で一筆書くことになっているそうで、それを提出するよう求められたのです。しかも、お題は漢字一字。どうりで校長室の書棚に書道道具が揃っているわけです。それにしても筆を手にするのは40年ぶりでしょうか。ちょっと緊張します。もしかしたら、その緊張が廊下に漏れだして、野球部の子らが気づいてくれたのかもしれませんが。実に今季一番の大勝負だったのです。



ちなみに一字は自分で選んでよいと言われたので私は「有」の字を選びました。命有る、志有る、朋有る、品有ると用いられるように「有」は何かを所有している状態に加え、備わっていることも示します。膨らみがありますよね。ちなみに私は2人の子どもの名前に「有」の字を入れ込んでいます。多くの出会いにより様々なものが備わっていく人生を、とのささやかな願いからです。78回生の皆さんがそんな膨らみのある人生を歩んでくれたら嬉しいですね。そんな全力の一字です。

さて、春の歓迎登山で約35kmの道のりは山好きの端くれとして、1年生とともに踏破した私でしたが、さすがに「耐寒登山マラソンも走るんですよ」との声にはいい返事ができませんでした。もともと私自身も走り切る自信はありませんでしたが、くわえて家族からは猛反対をいただきました。「自分の年齢を考えなさい」とのこと。確かに、仰るとおりではあります。もう若くはないですからね。

かくして、かねてより天候が心配されていた耐寒登山マラソン大会。幸い、当日は気温も少しあがりました。学校から2時間弱をかけて摩耶山に登り、男子7km、女子3.5kmを走るという半世紀以上の歴史を持つ神高らしい一大行事。山登り先導の1人&スターターとして大会を楽しんだ私ですが、この冬、体育の時間にひたすら走る生徒の皆さんを見ていましたから、その成果を発揮する場がもてたこと、しかも全力の走りを見せてくれたことが嬉しかったですね。結果として女子の部を制したのは戸谷夏姫さんと、男子の部は工藤光顕くんが制しました。ともに2位を引き離した見事な走りでした。おめでとうございます。



最後になりましたが、お世話いただいた医師・看護師の方々、運営をくださった先生方、ともに登ってくださったOBの方々に心から感謝を申し上げます。ありがとうございました。